

極晩抽性春どりネギ品種‘陽春の宴’

1 新しい品種の内容

(1) 背景・目的

弓浜砂丘地域で用いられる5月どり品種‘羽緑一本太’は、例年5月上旬頃から抽台の発生が多くなるため、極晩抽性を有する品種が求められている。そこで、品種比較試験を実施した結果、‘陽春の宴’（トキタ種苗）を有望品種として選定したので紹介する。

(2) 品種‘陽春の宴’の特性

‘羽緑一本太’と比べ、極晩抽性を有し、5月上中旬まで抽台の発生が少なく、多収である。

2 試験成果の概要

- (1) ‘羽緑一本太’を対照品種とし‘陽春の宴’と生育、収量、抽台を比較した。10a当たり施肥量は、慣行施肥体系に準じて窒素 28kg、リン酸 28kg、加里 28kg とした。
- (2) 生育を比較すると‘陽春の宴’は‘羽緑一本太’と比べ、草姿はコンパクトだが、葉鞘が長くなる特徴があった（表2）。また、葉が直立し、収穫時の作業性に優れた（達観）。
- (3) 5月上旬の‘陽春の宴’は抽台が少ないため、収穫本数が多く、多収であった。しかし、5月中旬以降は抽台が多発し、大幅に減収した（表3）。
- (4) 抽台率の推移を見ると‘陽春の宴’は‘羽緑一本太’より1週間程度抽台発生のピークが遅く、5月上中旬まで発生が少なかった（図1）。しかし、年次によって5月中旬から抽台が多発する場合があるため、5月10日を目安とした収穫が良いと思われた。

表1 耕種概要

年	播種 ^z	定植 ^y	収穫	
2021	7月28日	9月30日	5月3日	
2022	7月26日	9月27日	4月27日	
2023	7月27日	9月28日	4月26日	5月9日
2024	7月27日	9月25日	5月9日	5月21日

注) z200穴セル成型トレイ、4粒/穴、y畝間100cm、植付間隔10cm

表3 収穫調査（5月上旬以降のデータを記載）

年	品種	上物収量 ^z			
		本数	重量	出荷箱数 ^y	2L+L率 ^x
		(本/a)	(kg/a)	(箱/a)	(%)
5月9日					
2023	羽緑一本太	3,067	526	139	91.3
	陽春の宴	3,850	657	177	92.2

年	品種	上物収量 ^z				本数	重量	出荷箱数 ^y
		本数	重量	出荷箱数 ^y	2L+L率 ^x			
		(本/a)	(kg/a)	(箱/a)	(%)			
5月9日						5月21日		
2024	羽緑一本太	2,433	294	80	74.0	133	14	4
	陽春の宴	3,567	464	128	88.4	683	80	22

^zM規格(40～75g)以上の合計収量。y3L:14本/箱、2L:20本/箱、L:30本/箱、L4:40本/箱、M:65本/箱として算出。

^x(2L規格(150～230g)本数+L規格(100～150g)本数)/上物合計本数×100

※2021年、2022年は5月上旬からのデータがないため省略

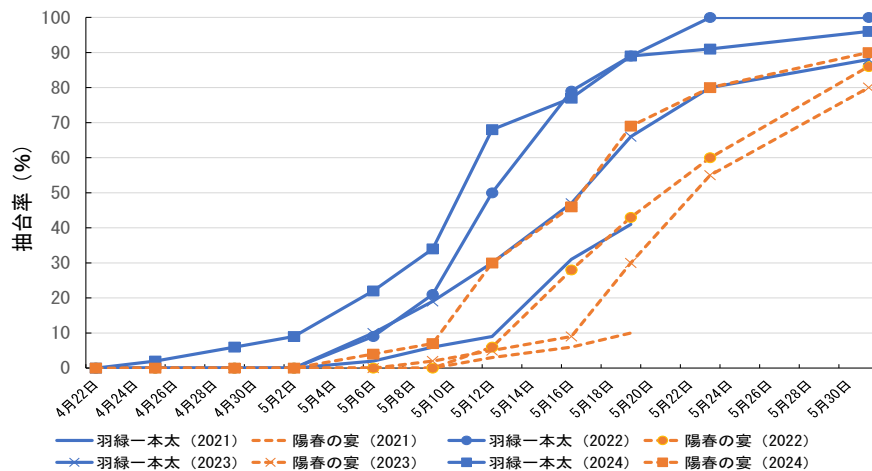


図1 抽台率の推移

3 普及の対象及び注意事項

(1) 普及の対象 弓浜砂丘地域

(2) 注意事項

- 1) 弓浜砂丘地域（平坦部、砂質土壌）における結果であり、他の地域および土壌については別途検討が必要である。
- 2) 冬期、春期の気象によっては抽台の時期が早まる可能性があるため、収穫前に抽台状況を確認し、早めの収穫を心がける。
- 3) 葉枯れ病に弱いため、定期的に防除を行う必要がある。
- 4) 8月定植では分けつが発生しやすいため、高温時の定植は避ける。

4 試験担当者

弓浜砂丘地分場 研究員 吹野颯音
研究員 岡崎悠希＊
＊現 鳥取県立農業大学校講師